

平成 2 9 年度事業報告書

公益財団法人発酵研究所

平成 29 年度事業報告書

目 次

I. 平成 29 年度事業状況（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）	
1. 一般研究助成	3
2. 大型研究助成	6
3. 若手研究者助成	8
4. 研究者招聘・留学助成	8
5. 寄付講座助成	9
6. その他	10
II. 処務の概要（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）	
1. 役員等に関する事項	11
1) 理事・監事の名簿	11
2) 役員の異動	11
3) 評議員の名簿	12
2. 役員会に関する事項	12
3. 許可・認可・証明に関する事項	13
4. 本省指示に関する事項	13

I. 平成 29 年度事業状況（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

1. 一般研究助成

- 1) 平成 29 年度一般研究助成の助成金を交付した（34 件、総額 10,200 万円）。
- 2) 平成 30 年度一般研究助成の募集を行い、選考委員会で選考のうえ決定した。

- ・助成金額：300 万円

- ・助成期間：2 年間（平成 30 年 4 月～32 年 3 月）

- ・研究課題

- 研究課題 1：微生物の分類に関する研究（分離、分類、保存、生態、進化など）

- 研究課題 2：微生物の応用に関する研究（発酵、生理・生化学、生理活性物質、プロバイオティクスなど）

- 研究課題 3：微生物の環境に関する研究（環境浄化、バイオマス変換、バイオエネルギー、バイオプラスチックなど）

- ・募集期間：平成 29 年 7 月 1 日～8 月 22 日

- ・応募件数

- 研究課題 1：71 件

- 研究課題 2：126 件

- 研究課題 3：52 件

- ・選考

- 選考委員会による一次選考（書面審査）

- 平成 29 年 8 月 28 日～10 月 23 日

- 選考委員会の開催

- 平成 29 年 11 月 14 日（研究課題 1）、11 月 16 日（研究課題 2）、
11 月 27 日（研究課題 3）

- ・採択

- 研究課題 1：11 件

- 研究課題 2：15 件

- 研究課題 3：10 件

研究課題 1

氏 名	所 属	研 究 題 目
原田 浩	千葉県立中央博物館植物学研究科	日本産海岸生地衣類の種多様性解明と同定ツールの開発
矢部修平	東北大学 農学研究科	放線菌門に属さない放線菌様系統「クテドノバクテリア」の選択的培養法の確立と分離及び創薬微生物資源としての有効性の検証
佐久間大輔	大阪市立自然史博物館学芸課	市民科学者とアカデミアの協働体制の構築と博物館が所蔵する学術的レガシーの活用による未記載・未解明大型担子菌類探求の推進
春田 伸	首都大学東京 理工学研究科	アーキア界に広がるメチル化合物利用性メタン生成アーキアの分離とその進化・生態
小野義隆	茨城大学 教育学部	熱帯アジアで猛威を振るうぶどうサビ病菌の生態学的・分類学的研究
中沢威人	京都大学大学院 農学研究科	木材腐朽菌の進化仮説を、実験室内で実証する
桑原宏和	東京工業大学生命理工学院	シロアリ腸内原生生物に細胞共生する <i>Desulfovibrio</i> 属細菌の共生進化
前川裕美	九州大学大学院 農学研究院	酵母の接合型遺伝子のグローバルな機能とホモタリズムとの相互作用
児玉有紀	島根大学 生物資源科学部	緑藻クロレラの細胞内共生による繊毛虫の進化と多様性のメカニズムの解明
土岐和多瑠	名古屋大学 生命農学研究科	難分解性物質を利用する昆虫における共生酵母とその機能
竹中慎治	神戸大学大学院 農学研究科	かつお節かび付け工程で働く好乾性糸状菌の分類と菌叢解析に関する研究

研究課題 2

氏 名	所 属	研 究 題 目
邊見 久	名古屋大学大院 生命農学研究科	アーキア膜脂質によるバクテリア膜脂質の置換に基づく大腸菌の細胞膜エンジニアリング
櫻庭春彦	香川大学 農学部	自然界からは未発見の有用アミノ酸脱水素酵素の酵素工学的創製

氏 名	所 属	研 究 題 目
太田邦史	東京大学大学院 総合文化研究科	人工ゲノム再編系による酵母発酵性能の改良
高妻篤史	東京薬科大学 生命科学部	空気と電気から含窒素有機化合物を製造する革新的 発酵プロセスの創出に向けた基盤研究
丸山千登勢	福井県立大学 生物資源学部	各種微生物由来 tRNA を利用した tRNA 依存型ペプチ ド合成酵素の tRNA 基質認識機構の解明と新規ペプチ ド系抗生物質の創製
西村慎一	京都大学大学院 薬学研究科	分裂酵母における細胞壁ホメオスタシスの化学遺伝 学的解析
東村泰希	石川県立大学 生物資源環境学部	大腸からの粘液分泌を活性化する菌株の同定とその 作用機序の解明～腸内フローラの変動から推察され る微生物叢への着目～
谷 元洋	九州大学大学院 理学研究院	脂質代謝異常に対する新たな防御応答機構の解明と 有用スフィンゴ脂質生産の基盤構築への応用
華岡光正	千葉大学大学院 園芸学研究科	光による大腸菌組換えタンパク質大量発現系の開発
田中誠司	高知工科大学 環境理工学群	微生物が備える可逆的ゲノム改編による環境適応メ カニズムの解明
宮腰昌利	秋田県立大学 生物資源科学部	グリシン誘導性 small RNA GcvB によるサルモネラ 増殖抑制機構の解析
山本裕司	北里大学 獣医学部	酸素耐性ビフィズス菌が有する抗酸化機構の解明
浅水俊平	東京大学大学院 農学生命科学研究科	ミコール酸含有細菌の接触刺激による放線菌二次代 謝応答機構の変異ゲノム解析を用いた解明
井口博之	京都学園大学 バイオ環境学部	変動環境下における葉面細菌のストレス対処と増殖 に関する研究
押木 守	長岡工業高等専門学 校環境都市工学科	ゲノムマイニングおよび培養試験から存在が見いだ された新規な亜硝酸還元酵素の正体と機能をつきと める

研究課題 3

氏 名	所 属	研 究 題 目
二又裕之	静岡大学 グリーン科学技術研 究所	微生物により生成される高蓄電ミネラルの生成機構 解明

氏 名	所 属	研 究 題 目
新井宗仁	東京大学大学院 総合文化研究科	軽油相当の炭化水素を大量生産可能なシアノバクテリアの創出
宮田直幸	秋田県立大学 生物資源科学部	埋立地浸出水処理槽において低濃度・低負荷条件で1,4-ジオキサン分解を担う微生物群集機能の解明
原 清敬	静岡県立大学 食品栄養科学部	光駆動 ATP 再生ミトコンドリアを用いた光エネルギー利用型酵母の創製とバイオフィンケミカル生産への応用
樋口美栄子	理化学研究所 環境資源科学研究センター	海洋性紅色光合成細菌によるバイオポリエステル生産システムの開発
渡邊崇人	京都大学 生存圏研究所	リグノセルロース系バイオマスからの有用芳香族化合物生産に向けた環境汚染物質分解細菌の利用
有馬二郎	鳥取大学 農学部	カニ殻堆肥由来の放線菌“ <i>Cellulosimicrobium</i> sp. NTK2”の遺伝資源と特性を利用した次世代バイオマス“キッチン”からの有用物質生産
宮崎 亮	産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門	1 細胞解析による遺伝子発現ノイズ制御機構の網羅的解明
若井 暁	神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科	鉄腐食性メタン生成菌固定化電極を用いた省エネルギー型二酸化炭素変換技術の開発
森 一博	山梨大学大学院 総合研究部工学域土木環境工学系	芳香族化合物を特異的に吸着する微生物を用いた活性汚泥の機能向上に関する研究

2. 大型研究助成

- 1) 平成 29 年度大型研究助成の助成金を交付した（4 件、総額 4,000 万円）。
- 2) 平成 30 年度大型研究助成の募集を行い、選考委員会で選考のうえ決定した。
 - ・助成金額：1,000 万円
 - ・助成期間：2 年間（平成 30 年 4 月～32 年 3 月）
 - ・研究課題
 - 研究課題 1：微生物の分類に関する研究（分離、分類、保存、生態、進化など）
 - 研究課題 2：微生物の応用に関する研究（発酵、生理・生化学、生理活性物質、プロバイオティクスなど）
 - 研究課題 3：微生物の環境に関する研究（環境浄化、バイオマス変換、バイオエネルギー、バイオプラスチックなど）
 - ・募集期間：平成 29 年 7 月 1 日～8 月 22 日

・応募件数

研究課題 1 : 14 件

研究課題 2 : 21 件

研究課題 3 : 6 件

・選考

選考委員会による一次選考（書面審査）

平成 29 年 8 月 28 日～10 月 23 日

選考委員会の開催

平成 29 年 11 月 14 日（研究課題 1）、11 月 16 日（研究課題 2）、

11 月 27 日（研究課題 3）

・採択

研究課題 1 : 1 件

研究課題 2 : 2 件

研究課題 3 : 1 件

研究課題 1

氏 名	所 属	研 究 題 目
奈良一秀	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	絶滅危惧樹木の保全に不可欠な菌根菌の系統分類と 菌株コレクションの構築

研究課題 2

氏 名	所 属	研 究 題 目
阿部敬悦	東北大学大学院 農学研究科	糸状菌の細胞接着制御による有用物質高生産を目指 した新規高密度培養技術の研究開発
小林哲夫	名古屋大学 生命農学研究科	糸状菌における多糖資化の優先順位決定に関わるシ グナル伝達・遺伝子発現制御機構の解明

研究課題 3

氏 名	所 属	研 究 題 目
池 道彦	大阪大学大学院 工学研究科	バイオ合成による環境適合型半導体製造技術基盤の 構築： 細菌による多様なカルコゲン代謝機構の解 明と合理的活用法の検討

3. 若手研究者助成

- 1) 平成 27、28、29 年度若手研究者助成の助成金を交付した(3 件、総額 700 万円)。
 - ・平成 27 年度若手研究者助成 3 年目助成金：1 件 (100 万円)
 - ・平成 28 年度若手研究者助成 2 年目助成金：1 件 (100 万円)
 - ・平成 29 年度若手研究者助成 1 年目助成金：1 件 (500 万円)
- 2) 平成 30 年度若手研究者助成の募集を行い、選考委員会で選考のうえ決定した。
 - ・助成金額：年間 500 万円 (生活費 400 万円＋研究費 100 万円)
 - ・助成期間：3 年間 (平成 30 年 4 月～33 年 3 月)
 - ・研究課題：微生物の分類に関する研究 (分離、分類、保存、生態、進化など)
 - ・募集期間：平成 29 年 7 月 1 日～8 月 22 日
 - ・応募件数：11 件
 - ・選考
 - 選考委員会による一次選考 (書面審査)
 - 平成 29 年 8 月 28 日～10 月 23 日
 - 選考委員会の開催
 - 平成 29 年 11 月 14 日 (研究課題 1)
 - ・採択：1 件

氏 名	所 属	研 究 題 目
辻 雅晴	国立極地研究所生物圏研究グループ	南北両極アイスコアに眠る古代菌類から見た過去 70 万年の菌類の進化とその環境適応

4. 研究者招聘・留学助成

- 1) 平成 29 年度研究者招聘・留学助成の募集を行い、選考委員会で選考のうえ決定し、助成金を交付した。
 - ・助成対象
 - ①微生物に関する研究を行う目的で来日する外国人研究者
 - ②微生物に関する学会で発表する目的で来日する外国人研究者
 - ③微生物に関する研究を行う目的で外国へ留学する日本人研究者いずれも分類に関する研究 (分離、分類、保存、生態、進化など)
 - ・募集期間：平成 29 年 4 月 1 日～5 月 18 日
 - ・応募件数：5 件
 - ・選考
 - 選考委員会による一次選考 (書面審査)
 - 平成 29 年 5 月 22 日～6 月 12 日

選考委員会の開催：平成 29 年 6 月（書面）

・採択：5 件

助成対象	申請者	受入機関又は学会	対象研究者	助成金申請額 (期間)
①研究招聘	中島千晴（三重大学 大学院生物資源学 研究科）	三重大学大学院 生物資源学研究科	MARK NEMETH ハンガリー 27 才	総額 75 万円 (3 ヶ月)
①研究招聘	中澤 太 (北海道医療大学 歯学部)	北海道医療大学 歯学部	Ratna Ramadhami インドネシア 26 才	総額 250 万円 (10 ヶ月)
①研究招聘	森美穂子 (北里大学生命科 学研究所)	北里大学 生命科学研究所	Bungonsiri Intra タイ 33 才	総額 300 万円 (12 ヶ月)
②学会招聘	萩原博光 (国立科学博覧)	第 9 回国際変形菌 類分類生態学会議	外国人研究者 2 名	総額 40 万円
③留 学	藤谷拓嗣（早稲田大 学ナノ・ライフ創新研究 機構）	デンマーク工科大 学環境工学科	申請者と同じ	総額 300 万円 (12 ヶ月)

・助成金の交付：5 件、総額 965 万円

5. 寄付講座助成

1) 平成 29 年度寄付講座助成金 2 億 5 千万円を筑波大学に交付した。

2) 平成 30 年度寄付講座助成の募集を行い、選考委員会で選考した。

・設置期間：5.5 年間（平成 30 年 10 月～36 年 3 月）

・助成金額：2 億 5 千万円

・募集期間：平成 29 年 6 月 1 日～9 月 10 日

・応募件数：12 件

・選考

選考委員会による一次選考（書面審査）

平成 29 年 9 月 11 日～10 月 20 日

選考委員会の開催

平成 29 年 11 月 20 日

・採択候補

申請部局：東京大学生物生産工学研究センター

講座名称：微生物膜輸送工学講座

担当教員：川崎 寿（東京電機大学教授）

研究題目：革新的技術による輸送系膜タンパク質機能の解明と「微生物膜輸送工学」への応用展開

・採択

第 21 回理事会（平成 30 年 3 月 9 日）で決定した。

6. その他

- 1) 一般研究助成、大型研究助成および寄付講座助成の研究成果を発表する第 11 回助成研究報告会を平成 29 年 6 月 9 日に千里ライフサイエンスセンターで開催した。
- 2) 一般研究助成、大型研究助成および寄付講座助成の研究成果をまとめた助成研究報告集 IF0 Research Communications No.31 を刊行した。

II. 処務の概要（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

1. 役員等に関する事項

1) 理事・監事の名簿

役 名	氏 名	現 役 職
理 事 (理事長)	中濱 一雄	
理 事 (常務理事)	樽井 直樹	
理 事	熊谷 英彦	京都大学名誉教授 石川県立大学学長
理 事	鈴木健一朗	東京農業大学応用生物科学部教授
理 事	富田 房男	北海道大学名誉教授
理 事	永井 和夫	東京工業大学名誉教授
理 事	中瀬 崇	理化学研究所名誉研究員
理 事	原島 俊	大阪大学名誉教授 崇城大学生物生命学部教授
理 事	古川 謙介	九州大学名誉教授 別府大学食物栄養科学部客員教授
理 事	本田 武司	一般財団法人阪大微生物病研究会 技術顧問

(以上 10 名)

役 名	氏 名	現 役 職
監 事	下元 高文	弁護士
監 事	藤井 智幸	税理士

(以上 2 名)

2) 役員の変動

代表理事就任 中濱 一雄 平成 29 年 6 月 8 日

理事重任 中濱 一雄 平成 29 年 6 月 8 日

理事重任	富田 房男	平成29年6月8日
理事重任	中瀬 崇	平成29年6月8日
理事重任	原島 俊	平成29年6月8日
理事重任	古川 謙介	平成29年6月8日
理事重任	本田 武司	平成29年6月8日
理事重任	永井 和夫	平成29年6月8日
監事重任	下元 高文	平成29年6月8日
監事重任	藤井 智幸	平成29年6月8日
理事就任	熊谷 英彦	平成29年6月8日
理事就任	鈴木健一朗	平成29年6月8日
理事就任	樽井 直樹	平成29年6月8日
理事退任	波多野和徳	平成29年6月8日
理事退任	木村 光	平成29年6月8日
理事退任	武田 光子	平成29年6月8日

3) 評議員の名簿

役 名	氏 名	現 役 職
評議員	今田 哲	元武田薬品工業株式会社理事
評議員	魚住 武司	東京大学名誉教授
評議員	北本勝ひこ	東京大学名誉教授
評議員	下田 親	大阪市立大学特任教授
評議員	関 達治	大阪大学名誉教授
評議員	竹内 昌男	医薬基盤研究所客員研究員
評議員	武田 直久	元武田薬品工業株式会社常勤監査役 公益財団法人武田科学振興財団理事
評議員	谷 吉樹	京都大学名誉教授
評議員	土屋 英子	広島大学名誉教授
評議員	吉田 敏臣	大阪大学名誉教授

(以上10名)

2. 役員会に関する事項

開催年月日	議 決 事 項	結 果
H. 29. 5. 24	第 1 9 回定時理事会 1. 平成 2 8 年度事業報告書及び決算書の承認の件 2. 第 7 回定時評議員会の召集の決定 3. 諸規程の制定及び改定の件	可決 可決 可決

開催年月日	議 決 事 項	結 果
H. 29. 6. 8	第 7 回定時評議員会 1. 平成 2 8 年度事業報告書及び決算書の承認の件 2. 役員の改選の件 3. 役員退職慰労金支給規程の改定の件 4. 常務理事中濱一雄常勤理事退任に伴う退職慰労金の贈呈の件	承認 承認 承認 承認

開催年月日	議 決 事 項	結 果
H. 29. 6. 8	第 2 0 回臨時理事会 1. 代表理事、業務執行理事の選任の件 ①中濱一雄を代表理事に選任し、理事長とする。 ②樽井直樹を業務執行理事に選任し、常務理事とする。	可決

開催年月日	議 決 事 項	結 果
H. 30. 3. 9	第 2 1 回定時理事会 1. 平成 3 0 年度事業計画(案)・収支予算書(案)等の件 2. 平成 3 0 年度寄付講座助成の件 3. 研究助成規程の改定の件	可決 可決 可決

3. 許可・認可・証明に関する事項

●H. 29. 4. 21 東淀川税務署へ納税証明書の交付請求を行い受領。

●H. 29. 4. 21 大阪府なにわ北府税事務所及へ「法人等の府民税の減免申請書」を提出。大阪市へ「法人等市民税減免申請書」を提出。

大阪府及び大阪市へ納税証明書の交付請求を行い受領。

- H. 29. 5. 12 大阪市から税の減免通知書受理。
- H. 29. 5. 29 大阪府から税の減免通知書受理。
- H. 29. 6. 5 淀川労働基準監督署へ「労働保険概算・確定保険料申告書」を提出。
- H. 30. 3. 28 淀川労働基準監督署へ「時間外労働・休日に関する協定届」を提出。

4. 本省指示に関する事項

- H. 29. 6. 27 内閣府へ平成28年度事業報告等に係る提出書を電子申請提出。
- H. 29. 7. 4 内閣府へ任期満了に伴う、役員等の改選の変更届書を電子申請届出。
- H. 30. 3. 13 内閣府へ平成30年度事業計画書等に係る提出書を電子申請提出。

以 上

注記

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。